

調査視察報告書

平成28年6月17日

民生環境委員会

日程	平成28年5月 9日(月)～11日(水) 3日間
視察先 及び 調査項目	東京都 港区 おとなの学校 南青山校 (9日 午後1時30分～3時30分) ・ おとなの学校の取り組みについて
	神奈川県 横浜市 神奈川県庁 (10日 午前10時～11時30分) ・ 介護ロボット普及推進センターの取り組みについて
	神奈川県 横浜市 特別養護老人ホーム芙蓉苑 (10日 午後1時30分～2時45分) ・ 介護ロボットの活用について
	埼玉県 和光市 (11日 午後1時30分～3時30分) ・ 介護予防事業の取り組みについて
参加委員等	尾関 善之 委員長、 亀井 敏郎 副委員長、 上羽 和幸委員、 小杉 悦子委員、 鯛 慶一委員、 山本 治兵衛委員、 和佐谷 寛委員
調査概要	<p>東京都港区 おとなの学校 南青山校 対応者:営業課長</p> <p>・ おとなの学校の取り組みについて</p> <p>① 内容</p> <p>特徴①:高齢者の五感を刺激する”教室という空間”。まず入って目に飛び込んで来るのは、黒板やチョーク、時間割、時計。鉛筆やプリントに触れ、チャイムが聞こえてきます。”学校の昔懐かしさ”を五感で感じられる作りとなっています。この中で、国語や算数をはじめ”授業”という形で機能訓練や脳リハビリのサービスの提供、また積極的に話したくなるよう工夫されています。</p> <p>特徴②:”学びの喜び”。利用開始日には、”入学式”、半年に一度、努力の成果発表し通知票を受け取る”成果発表会”、”卒業式”、という晴れ舞台も用意されておりちょっとした緊張感と、家族や仲間から寄せられる拍手に涙される方もある。これこそが、おとなの学校の醍醐味を感じる。評価の中、全てが甲で”できる”を大切にすることで、さらに学びの意欲に繋がっています。</p> <p>特徴③:”仲間たち”。互いに安心を生む仲間、時には高め合う仲間、先生や仲間の励ましの声に高齢者が諦めずに取り組む姿が見られます。</p> <p>② 質疑応答</p> <p>質問の主なものとして、「皆さんの認知症とは思えないいきいきとした授業を拝見して通所されている介護度はどの程度ですか」。また、「一日に必要な費用はいくらですか」、といった質疑に対して、「おとなの学校独自の高齢者向けの教科書で、よくご存知の話題(内容)を中心に用意されているため、参加者が自ら活発に話をされます。活発な話を引き出すことに、おとなの学校のノウハウがあります。また、学びを通して皆さんの自尊心を大切に組みんでいます。介護度は2.1～2.5程度、費用については介護度が基本で1割負担、その他に食事等で1.000円程度」との答弁がありました。</p>
	<p>神奈川県横浜市 神奈川県庁 対応者:高齢福祉課 企画グループリーダー</p> <p>・ 介護ロボット普及推進センターの取り組みについて</p> <p>① 内容</p> <p>神奈川県において、今後、急速に高齢化が進むことが見込まれ、介護施設や在宅の介護現場における介護者の負担が増大することが予測される。そこで、介護現場の負担軽減を図るとともに、高齢者の自立支援のため、介護ロボットの介護施設等への導入を推進していく必要がある。高齢福祉課では介護ロボットの導入現場の公開や活用事例の蓄積・発表など行う。また、介護ロボット普及推進事業を円滑に実施するため、介護ロボット普及推進センターを設置している。</p>

具体的には、①公開事業 ②HAL活用事業 ③リハビリ用介護ロボットの普及拡大拠点事業 ④介護ロボット普及拡大拠点事業 ⑤「神奈川県らくらく介護宣言」関係事業 ⑥介護ロボット導入支援事業の6事業を実施している。

② 質疑応答

質問の主なものとして、「神奈川県が先進的であると認識しているが、普及が進んでないような説明を受けたが、意識調査の感触はどうか」。また、「スマートスーツについて、介護職員の過酷な労働環境の中で、腰痛が離職の原因となっている。また、在宅介護家族向けにも普及すると思う。評価と価格について」の質疑に対して、「まず、現場の理解が進んでない現状を把握しているが、ロボット自体、いま開発段階にあり導入に際して、いろいろと改善策が必要となったときシステム変更に伴う時間・費用について考慮する必要がある。また、スマートスーツについては、芙蓉苑での職員の評判は良い。価格については約5万円であるが今のところ補助金は出していない。効果もあることから国において、補助対象としていただくとありがたい」との答弁がありました。

神奈川県横浜市港南区 特別養護老人ホーム 芙蓉苑 対応者:施設長
・介護ロボットの活用について

① 内容

介護を取り巻く環境は人材の確保などさまざまな課題が存在する中、神奈川県では介護人材の確保と労働環境の改善から介護ロボットの導入を推進されており、実際にロボットを導入している特別養護老人ホーム芙蓉苑の現場を視察する。芙蓉苑は、平成24年から神奈川県との締結により、現在6種類①「パロ」②「パルロ」③「ルンバ」④「うなずきかぼちゃん」⑤「スマートスーツ」⑥「ロボットアシストウォーカー」の介護ロボットを活用して介護サービスを行っている。その中で、「パルロ(コミュニケーションパートナーロボット)」は、人間の言葉が理解でき、積極的に話しかけながらコミュニケーションをとることにより、認知症の予防やセラピー効果の観点から注目を集めている。「パルロ」と会話したりダンス、ゲームなど一緒にすることで、介護予防の効果が期待されている。

② 質疑応答

質問の主なものとして、「4年前から稼働されていると思うが稼働状況について、導入にあたっての補助があったか、費用対効果について、また、ロボット自体の音量では耳の遠い方もあると思うがどのような見解をお持ちですか」の質疑に対して、「毎日やっていると飽きると思うのである程度、特別な日として運営している。補助については、県が行っており、その代わりに県へノウハウをフィードバックして協力している。負担軽減については、大きな効果が期待できるが1台80万の負担となれば課題もある。また、音量については、補聴器を付けておられる方もあり、注意しているが、なんといってもご自身が聞き取る姿勢も大事であり、あくまでも自立を目指して頑張っていたきたい」との答弁がありました。

埼玉県 和光市 対応者:保健福祉部長

・介護予防事業の取り組みについて

① 内容

和光市では、先進的な取組(介護保険法の周知含む)により、要介護(支援)認定率や保険料が低く安定したものとなっている。これらの効果は市の施策に市民が呼応した結果によるもので、高齢者の皆様がさらに元気で安心して暮らしていけるよう、高齢化社会のピークポイントとなる2025年(平成37年)に対応するため、基本目標、基本方針を設定している。

② 質疑応答

質問の主なものとして、「職員の意識について、新たな施策を行う際に、根底にある思いについては何を持って臨むのか。また、事業者の24時間定期巡回や家賃補助について課題を持っている。実現できない現状を解決するのにどうすればよいか」。などの質疑に対して「地方分権をどう捉えるかで説明がつくのではないか、地方の課題をどう解決するかは、地方公務員の役割。根拠ある数字と分析、これが課題対策の要。つぎは、ニーズ調査で実態を把握していないかぎり、対策は打てない。ニーズ調査をしっかりとやって、方針を明確に立てることだと思う。などの答弁がありました。